

1. 中学校理科における特別な配慮が必要な児童生徒への対応

10月説明会時から赤字部分を更新

令和 7 年度調査の中学校「理科」における特別な配慮が必要な児童生徒への対応は以下のとおりです。従来と同様、各学校の判断により、当該児童生徒の障害の種類や程度、日本語能力に応じた配慮を可能とします。特に、CBTで実施するに当たり、以下のような配慮も考えられます。

- 必要に応じて、付添者が、端末画面に表示されている文字を音読し、生徒から解答を聴き取り代理入力するといった対応可（口頭解答をするため別室で実施）。
- 必要に応じて生徒が日常使用している入出力支援装置、端末のアクセシビリティ機能(※)の活用可。ただし、問題文をテキストデータではなく画像データにより示す設問もあるなど、全ての問題でそのができるものではないことに留意。

主な対象	中学校理科における調査資材	調査問題冊子・解答用紙
視覚障害のある生徒	拡大文字問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信
	点字問題冊子 (解答時間延長) 1月20～31日で実施するD調査にて必要部数等を照会予定。	PBTで作成・配布 (従来と同様)
聴覚障害・肢体不自由・病弱等その他の障害のある生徒	時間延長問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信
日本語指導が必要な生徒	ルビ振り問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信

2. 配慮版問題のサンプル問題搭載について

令和 7 年 1 月 15 日(水)に、中学校理科のサンプル問題（拡大文字問題・ルビ振り問題）をMEXCBT上に搭載予定です。これらのプログラムは、本番の問題と同様の形式となっていますので、これを活用して事前検証を行っていただく際に、普段の学習で使用している入出力支援装置や端末のアクセシビリティ機能(※)がどの程度使用できるのか確認いただき、4 月の実施時の学校における対応方法の検討をお願いします。

(※)音声読み上げ、ピンチ操作、反転・リフロー表示、フォント・コントラスト変更等

令和7年度全国学力・学習状況調査における特別な配慮 国語・算数・数学・小学校理科

○従来と同様、各学校の判断により、当該児童生徒の障害の種類や程度、日本語能力に応じた配慮を可能とします。

○小・中学校の各教科（中学校理科以外）における配慮問題等の必要部数については、1月20～31日で実施するCD調査にて例年どおり照会予定。

主な対象	国語・算数・数学・小学校理科における 調査問題冊子	国語・算数・数学・小学校理科における 解答用紙
視覚障害のある生徒	拡大文字問題冊子	拡大文字用解答用紙 通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)
	点字問題冊子	点字用解答用紙 通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)
聴覚障害のある生徒	通常問題冊子	通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)
肢体不自由・病弱等 その他の障害のある生徒	通常問題冊子	通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)
日本語指導が必要な生徒	ルビ振り問題冊子	通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)